

滿語輯韻や増訂滿語輯韻、又は清文鑑名物語抄等と滿語纂編、清文鑑和解等との比較研究は他日に期せなければならぬ。兎も角江戸に於ける成果と共に、長崎に於ける此等の編纂も、我が邦の滿洲語學發達史上に於ける顯著なる功績として、特筆せられねばならぬことである。

(東洋史研究第一卷第六號、昭和十年七月二十五日)

(編者註、本編の題名は、もと「清文鑑和解・滿語纂編解説」とあつたが、滿語纂編は正しくは翻譯滿語纂編であるから翻譯の二字を加えることにした)

しんがのいせのころを編輯し、その編に於ける功績の甚だ大なる苦心を記し、大塚五郎
知して大塚五郎の著する書に於ける功績の甚だ大なる苦心を記し、大塚五郎の著する書に於ける功績の甚だ大なる苦心を記し、大塚五郎
て編輯し、その編に於ける功績の甚だ大なる苦心を記し、大塚五郎の著する書に於ける功績の甚だ大なる苦心を記し、大塚五郎
め、大塚五郎の著する書に於ける功績の甚だ大なる苦心を記し、大塚五郎の著する書に於ける功績の甚だ大なる苦心を記し、大塚五郎
おぼやかし、大塚五郎の著する書に於ける功績の甚だ大なる苦心を記し、大塚五郎の著する書に於ける功績の甚だ大なる苦心を記し、大塚五郎
る功績として、大塚五郎の著する書に於ける功績の甚だ大なる苦心を記し、大塚五郎の著する書に於ける功績の甚だ大なる苦心を記し、大塚五郎
大塚五郎の著する書に於ける功績の甚だ大なる苦心を記し、大塚五郎の著する書に於ける功績の甚だ大なる苦心を記し、大塚五郎
る功績として、大塚五郎の著する書に於ける功績の甚だ大なる苦心を記し、大塚五郎の著する書に於ける功績の甚だ大なる苦心を記し、大塚五郎

る功績として、大塚五郎の著する書に於ける功績の甚だ大なる苦心を記し、大塚五郎の著する書に於ける功績の甚だ大なる苦心を記し、大塚五郎